

慶蔵院寺報

# 公孫樹

2023年5月発行

第136号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町1211

☎0596(22)3726



慶蔵院 地蔵堂

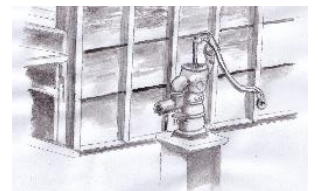
画 山寄淑子

地蔵さんの井戸の水が出ました!!  
手洗い、散水にご利用ください…

慶蔵院身代り地蔵尊のご利益を、より多くの皆さんに知ってもらい、念仏興隆の橋渡しを、お地蔵さんにお願ひしたいと思つようになってから、地蔵堂の傍に井戸が欲しいと思い始めていました。そんなある日、辻井廣美さんが訪ねて見えてこのように話し出されました。「おっさんの意見を聞きたいと思つて…。井戸を掘ることについてどう思いますか。自分で勉強して、道具もそろえて、いざ庭に井戸掘ろうと言つた家族に反対されて…」と。即座に答えました…。「試しに地蔵堂の横に井戸を掘ってくれませんか」。

辻井さんの井戸掘りが始まりました。九月のことでした。作業は、何度か行き詰りました。打ち込んだパイプが右にぶつかって先に進まなくなつてしまつのです。場所を変えまた挑戦…。「いったん決めたこと。途中ではやめられない…」修行僧の様相です。様々な方法を考え、手製の梯子を継ぎ足して伸ばしていきながら、掘り進めます。

寺世話人五役会議で意見が出ました。「あれだけ深く掘ったら危険ではないか。土が崩れて事故でも起きたら…」と。掘り進める辻井さんに声を掛けます。「大丈夫ですか。土は崩れませんか。」「下からの返事。「崩れるかどうかは、ここに居る者が一番わかっている。」「怖くないですか」「2メートルくらい掘った時は怖いと思ったこともあったけど、ここまで掘ったら怖いことは何にもない…」かける言葉も失つて、南無阿彌陀仏と称え続けます。手伝ってくれている伊藤君も一緒に南無阿彌陀仏…。下から上がってきた辻井さん「応援ありがとう。おかげで頑張れた…」と汗をぬぐいます。西山さんも、中山さんも、橋爪さんも、中森さんも、そして奥さんも、皆さんに見守られて、辻井さんの井戸掘りは八か月かかって完了しました。揚がってきた水はまだ少し濁っていますが、宝の水です。



絵 山寄淑子

# 5月の行事予定



3日(水)	男性詠唱隊	午後 7時～
10日(水)	写経会 落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午前10時～ 午後7時～ 一会館にて 無料 おひねり歓迎
17日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 参加費500円
13日・27日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円
24日(水)	地蔵講・地蔵堂開帳	午後1時半～
25日(木)	戦没者慰霊平和の鐘	朝の勤行にて⇒26日に実施 午後1時半～3時
11日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 一会館にて 参加費1回1000円
12日・26日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 大人500円 一会館にて

※「写経会」は住職の都合で、今月は第二水曜日にさせていただきます。よろしく  
お願いします。

ます。葬儀にいただいた「送る言葉」を紹介させていただきます

慶徳院豆知識

追悼③



前島先生との出会いは昭和60年です。…この間、どれだけの多くの事があったでしょう。…幼稚園にはたくさんの方  
事があります。七夕様から発表会まで多彩です。先生は行  
事に対して何事にも全力で取り組み、頑張ることの大切さ  
を教えて下さいました。どの行事の一つ一つにも先生の暖  
かい気配り、目配りがありました。…雷が鳴ると怖くて走  
り回って泣いた子、お昼ご飯にはカップラーメンしか食べ  
なかった子、何もしたくないと駄々をこねた子、又すべっ  
た、転んだ、喧嘩した…という困った赤ちゃん達を抱っこし  
てなでたりさすったり、なだめてあやして対応して下さっ  
ていた姿、園児達への関りの様子や口調が思い出されま  
す。…どんな時も暖かく受け止めアドバイスを下さった  
り、ある時は面白おかしく心配を吹き飛ばしてくれたり、  
若い先生達にとっては「肝っ玉かあさん」の様な存在でし  
た。私自身も幾度励ましの言葉で勇気づけられたか分か  
りません。

…先生から沢山のご指導と暖かいお気持ちを感じたこ  
と、心より感謝致します。ご恩は忘れません。私の人生に  
おいておいて先生に出会えたことは宝です。ご冥福を皆さ  
んとともに心からお祈り申し上げます。

あおい園・和順幼稚園旧職員代表

稲垣怜子

令和5年度の寺世話人の皆様です。

- 倉野剛一さん 山西暁彦さん ☆下 喜仁さん
- 太田茂男さん ☆西里中和さん 麻畑公生さん
- 松家 昇さん 野呂俊文さん 森下 幸さん
- ☆中山喜子さん 川元正春さん 倉野幸次さん
- ☆中山憲一さん 大西 稔さん 奥田悦生さん
- 飯田信雄さん 藤原幸夫さん 椋本卓史さん
- 奥野正志さん
- 奥野幸宏さん

☆は今年度からお願いする方です

### 麻畑公生の「浄土宗新聞」

#### 見どころ・読みどころ



#### P.1「鐸声」を読んで思ったこと

衆生を有情と表現したりするが、それに対して無情があるというところで、無情の例として小川、鉱物、金属などで植物も含まれるというのになにか感じるものがありました。有情には仏としての本質が具わっているが、無情にはそれがないと…。果たしてそうなのか…。霊山、神木、何々供養、精入れ精抜き等々。日本人は昔からあらゆる物に靈性を感じて来たと思います。虫の声も雑音とは感じません。今はどうでしょうか。靈性を感じる力が落ちて来ていないでしょうか。

念仏をお称えしてして靈性を感じる力を磨きましょう!!

#### 住職の健康回復への道のり(十

五)

母が亡くなった三月十五日に痛み出した帯状疱疹、十七日に皮膚科にて薬をもらい、八尾で様子を見てもらってきました。葬儀を終えてからは痛みが痒みに代わりだし、いまでも少し残っています。気にならない程度まで修まりました。痒いときはメンソレータムです。

共倒れにならないようにと、母が先に往って自分の命を、私に接ぎ木していつてくれたように感じます。葬儀後の血液検査では、心臓に水が溜まっていることを表す数値が6ポイントほど基準値を超えているのですが、その他の数値はすべて基準値内に治まりました。尿酸値も腎臓のクリアチニンもです。来週には三回目の二十四寺町トレナリー吉果ごでます。ヒューマンビ

落語会「いちご亭」

無料です

第2水曜 10日 午後7時

会館



夏が来る夕日の先へ手を合わせる

奥田 悦生

(「知恩」五月号「柳壇」に掲載)

華道「山村御流」教室を、六月から始めま

す

毎月第二月曜日、午後一時半より 慶蔵院座敷にて

費用、月一回 二〇〇〇円

花代別：お花は奈良から取り寄せます。

送料も含めて約一五〇〇円ほど必要かと思われま

す。八月はお盆のため、日程の変更があります。

左記の通り、先生から紹介をしていただきました。

花は野にあるように

華道山村御流 小森 清美

若葉が輝く野山にやさしく咲く草木が美しい季節を迎えました。めまぐるしく変動する世の中でも、自然は変わらず四季が巡り、愛らしい花の姿、尊い自然の姿を見せてくれます。その生命に触れます時、気持ちや和らぎ、安らぎを感じます。

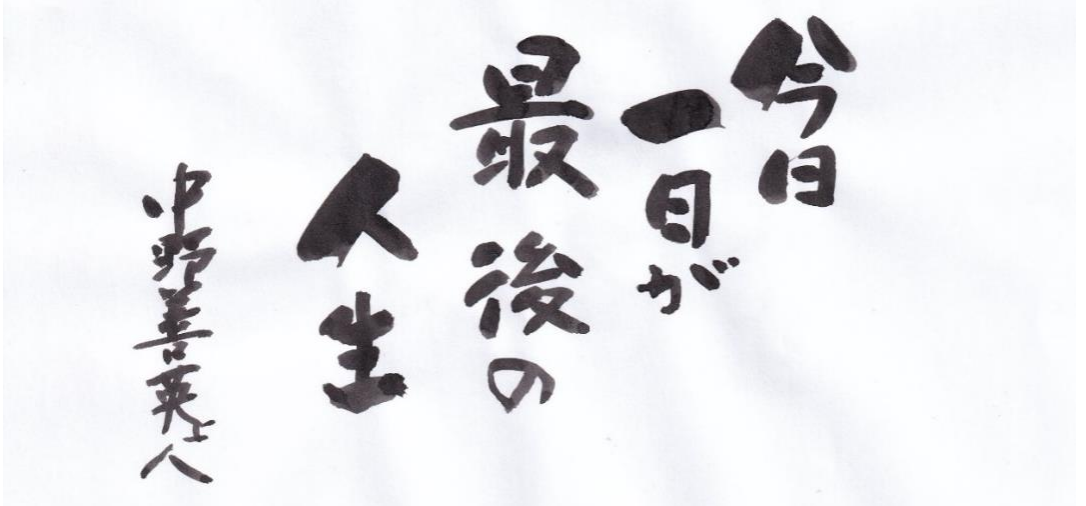
六月より生け花講座をさせて頂くことになりました。

山村御流は、「花は野にあるように枯淡・素朴」を真髄としています。奈良、圓照寺が発祥の流派です。

シンプルに見えながら花のあるがままの姿を生かして気品のある花型を大事にしています。

季節の花々を身近に感じ、花の持つ自然の美しさを生かしてお花を楽しんで頂きたいと思ひます。

麗しき 花の心の いろいろに



追悼④

おばあちゃん いつかはこういう日が来るとは思っていませんでした。1月4日に、私と夫と3人で鳥羽の方にドライブして、牡蠣を食べたと、また来年も行く、と約束したことが昨日のことのようです。

私は9人いる孫の中で一番最初の孫としてこの家に生まれました。... 孫から見ても、祖母にとって幼稚園はかけがいのない存在でした。園の行事である発表会や作品展などを誇りにし、よく自慢していました。行事への力の入れ方はすごく、毎回毎回、園の先生方と共に、想像力とアイデアに富んだ素晴らしい発表会、作品展を作り上げていました。

私たち孫は、そんな祖母の姿を見て成長してきました。祖母が言ってきてくれたことを今、自分自身がしているなど感じます。

大学に入った頃、祖母が手紙を書いてくれました。

『世の中には簡単には割り切れない問題がたくさん存在する。それを解決するためには学問をし、自分で考えろという努力をしなければならない』『自分が興味を持つ分野だけでなく、なるべく広く学ばなければならない』と。

現在の自分が日頃行っていることを、手紙にしたためてくれていたんだということに改めて気づかされました。

晩年の祖母は、足が弱り、身体を壊しましたが、常に生きることを諦めていませんでした。不自由な身体となり、一度はもうダメではないかという時期もあったのですが、そこから生き返り、周りに支えられながらも、できうる限り身の回りのことを自ら行い、日々の生活を大切に、丁寧に過ごしていたように思います。そんな祖母の姿を見て、人間の計り知れない力を見た気がしました。

祖母はこの世からいなくなり、私たちは深い悲しみの中にありますが、祖母は身をもって「どう生きるのか」「どう生きなければならぬか」「そして「最後をどう迎えるか」ということを教えてくれたように思います。

私たちはおばあちゃんのことを忘れません。おばあちゃんの思いや教えを、しっかりと受け留めて受け継いでいきます。

これからもどうか私たちを見守っててください。

孫代表 加藤訓子